

式辞

厳しい冬の寒さも少しずつ和らぎ、吹き渡る風にも早春の気配が感じられる今日の佳き日、中の海会会長、^{しらね} ^{ひとし} 白根 一 様、PTA 会長、^{おおえ} ^{まさゆき} 大江 将幸 様、並びに保護者の皆様のご臨席のもと、島根県立安来高等学校、第 120 回卒業証書授与式を挙行できますことに、卒業生はもとより、本校教職員・生徒一同、誠に光栄で有り、心から感謝申し上げます。

ただいま卒業証書を授与した 123 名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして、今日まで限りなく深い愛情でお子様を見守られ、支えてこられました保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうござります。心からお祝い申し上げます。また、これまで本校の様々な教育活動に際してご理解とご協力を賜り、お蔭をもちましてこの日を迎えられましたこと、教職員一同、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生の皆さん。皆さんの高校三年間は本当にコロナに翻弄されたものでした。私の安来高校校長生活も皆さんの入学と同じ年に始まりましたが、この文を書くのに三年前の会議資料を開いてみると最初の数ヶ月は激動の期間でした。皆さんのスタートである入学式も来賓はおろか在校生の出席もかなわないものになりました。そして入学後十日ほどで休校に、ゴールデンウィーク明けも五月一杯は分散登校など、皆がそろって学校生活が始まったのは実質六月からとなりました。その後も、県総体の中止を始め様々な活動に制限がかかりました。そのようなスタートを切ったこの三年間、様々な行事をコロナ禍の中でどうすればできるかを工夫し考えながらの日々が続きました。正解のわからない問題に皆さんとともに立ち向かったこの三年間の経験は私にとっても貴重なものになりました。以前「風が一番高く上がるのは、風に向かっていている時である。風に流されている時ではない。」という言葉を紹介しました。まさにコロナ禍の向かい風の中、風に向かって高く上がる風のように胸を張って凛々しく立ち向かった高校三年間を誇りに思っています。

さて、いよいよ卒業です。18 歳成年もスタートしており、全員が四月からは一人の責任ある大人として就職や進学など新たなステージに向かうこととなります。皆さんが旅立つ社会は、いままで当たり前とか常識とかと思っていたものが瓦解し、暮らし方や働き方、社会のあり方そのものが劇的に変化し続けています。併せて人々の生き方や価値観についても多様性が増し、これまでの常識や感覚が通用しない時代になってきています。そのような日々目まぐるしく変化する

る激動の社会に巣立っていく皆さんに餞として持っておいてほしい視点を二つお話しします。

一つは「ソウゾウリョク」を高めてほしいということです。ここでいうソウゾウリョクには二つの意味があります。一つは考える力としての想像力 imagination（イマジネーション）です。このような判断をしたらどのようなことが起こることが想定されるのか、あるいはこのような発言をしたら相手はどう思いどのような反応を示すのか、など危機管理や人間関係構築の基本はこの想像力にあると思います。多様な考え方があふれる現代において自分のこの意見や行動は様々な人にどのように受け止められるかなどを一度立ち止まってイメージしたうえで決断することでリスクを最小限に抑えるとともに、豊かな人間関係を築くことができると思います。もう一つは創り出す力としての創造力 creativity（クリエイティビティ）です。創造力とは「情報を組み合わせ問題解決し、新しい価値を生み出す力」です。AIの進歩が進む現代において、与えられた仕事をこなすだけでは通用しません。その仕事に何を求められているかを想像（イメージ）し自分なりの創意工夫をして、その仕事を通して新しい価値を付加することのできる人こそが社会で求められています。そして、これら二つの「ソウゾウリョク」を高めるために共通して必要なことは、情報収集のためのアンテナを高く広くはりめぐらすことです。アンテナの感度が鈍いと正しいイメージができません。社会情勢・社会が求めているもの、相手の思い考え方など多くの情報をもとにイマジネーションを膨らませて判断しなければ多様性のあふれる現代に対応していくことは難しくなります。

二つ目は安来高校の教育目標「きびしく 高く 美しく」です。皆さんが二年生になるときに、安来高校のグランドデザインを策定しました。その中で育てたい生徒像をこの教育目標に照らして次のようにしています。きびしく・自分と向き合う力として、よりよい社会の創り手として自分自身を律して責任ある行動がとれる人。高く・課題と向き合う力として新たな価値の創造のために高い理想を持ち探究し続ける人。美しく・他者と向き合う力として地域への愛着を基盤に多様な価値観を認め合う共生社会を生き抜くことができる人。これらの力は先ほど話したような予測不可能な時代を生き抜くためには必要不可欠な力です。何か決断を必要とする際には一度立ち止まって、この教育目標「きびしく 高く 美しく」を思い出し、悔いのない決断をし、豊かな人生を送って欲しいと思います。

最後に、卒業生の皆さん。校歌は歌えますか。皆さんが入学して以来この三年

間は始業式・終業式など校歌を歌う機会が奪われました。この後校歌斉唱があります。今日はマスクをしてですが歌うこととしました。前の歌詞を見ながらでも口ずさんで見てください。波静かなる中の海、雪清らなる大山、社日櫻の咲くところ、皆さんが育ったこの美しい故郷安来の姿と、新しき世に生きてゆくこの喜び、若き心を鍛えずや、光ささぐる人足らむ、と高校時代に皆さんが追い求めてきた姿が謳われています。校歌は同じ学び舎で学んだものが年代を超えて一つになれるものです。卒業後安来を離れる人も残る人も、この学校で、この安来の地で過ごした三年間の思い出と、故郷安来への誇りと愛着と共に、この歌を忘れないで欲しいと思います。近い将来大きな声で歌える日が来ることを期待し、そのときには皆が集って高らかに歌って欲しいと思います。

きびしく 高く 美しく 新しき代に光ささぐる人たらん 卒業生のこれからの人生に幸多かれと祈念して式辞といたします。

令和五年三月一日 島根県立安来高等学校長 柳樂 眞悟